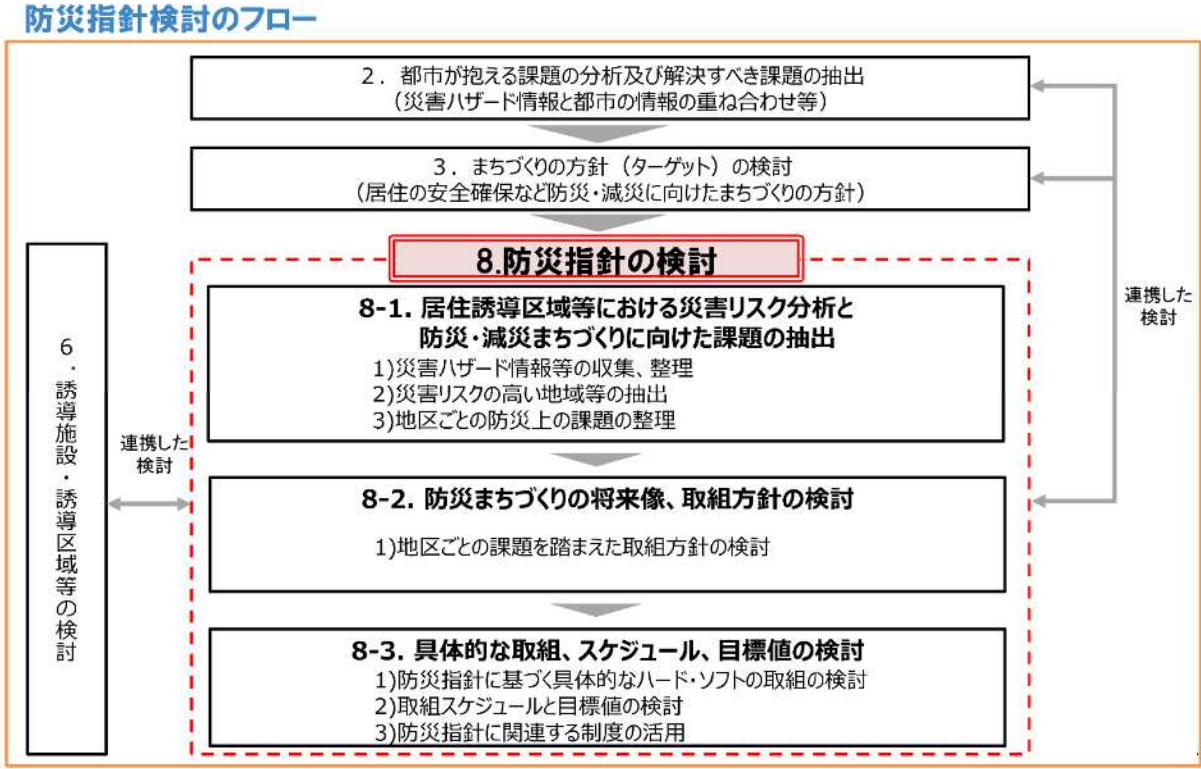


1. 防災指針とは

防災指針は、居住や都市機能を誘導する上で必要となる、都市の防災に関する機能の確保を図る指針であり、令和2年9月の都市再生特別措置法の改正により、当該指針に基づく具体的な取組と併せて立地適正化計画に定めることとなりました。

弥富市の浸水エリアは広範囲に及び、既成市街地を居住誘導区域から除くことは現実的に困難です。また、地震については、影響範囲や程度を地域ごとに分析し、居住誘導区域から除外することに限界もあります。このため、居住誘導区域における災害リスクを低減させる防災・減災対策を実施していくことが求められます。

このため、立地適正化計画においては、災害リスクを踏まえた課題を抽出し、都市の防災に関する機能の確保のため、防災指針を定めるとともに、この方針に基づく具体的な取り組みを位置付けることとされています。



2. 災害リスクの分析

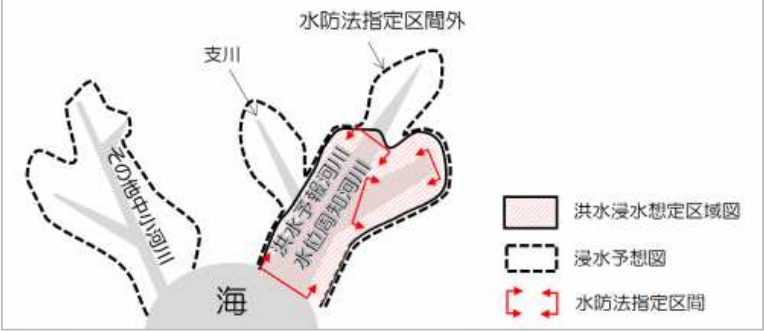
(1) 本市における災害ハザード情報の整理

本市で想定されている災害ハザード情報を以下に整理します。なお、地震、液状化については、市全域での対応が求められるため、弥富市地域防災計画や弥富市地域強靱化計画等の防災関連計画に基づいて対応していくこととします。

■本市における災害ハザードの情報

種類		規模	災害リスク
洪水浸水想定区域	木曽川	■計画規模（200年に一度）※ ■想定最大規模※※	浸水深、浸水継続時間、氾濫流
	日光川	■計画規模（100年に一度）※ ■想定最大規模※※	浸水深、浸水継続時間、河岸浸食
	領内川	■計画規模（30年に一度）※ ■想定最大規模※※	浸水深、浸水継続時間
洪水浸水予想図	日光川流域	■計画規模（日光川は100年に一度、支川は30年に一度）※ ■想定最大規模※※	浸水深、浸水継続時間、河岸浸食
	鍋田川流域	■計画規模（50年に一度）※ ■想定最大規模※※	浸水深、浸水継続時間、河岸浸食
	筏川流域	■計画規模（50年に一度）※ ■想定最大規模※※	浸水深、浸水継続時間、河岸浸食
高潮浸水想定	■想定最大規模（室戸台風規模） 500年から数千年に一度の確率による浸水（堤防等決壊あり）		浸水深、浸水継続時間
	■室戸台風規模 500年から数千年に一度の確率による浸水（堤防等決壊なし）		浸水深、浸水継続時間
	■伊勢湾台風規模 50年から150年に一度の確率による浸水（堤防等決壊なし）		浸水深、浸水継続時間
津波災害警戒区域	■津波災害警戒区域 最大クラス（千年以上に一度の確率）の津波を対象に津波浸水想定に定める水深に係る水位に建築物等への衝突による津波の水位の上昇を考慮して必要と認められる値を加えて定める基準水位		津波浸水深

※河川整備において基本となる降雨
※※想定し得る最大規模の降雨
※※※浸水予想図:水防法の指定河川における「洪水浸水想定区域図」に加えて、水防法の指定区間外(上流部や支川)の浸水リスク情報として愛知県が公表したもの。「浸水予想図」は、水防法指定区間外や支川からの氾濫も含まれることから、「洪水浸水想定区域図」よりも浸水範囲が広い。

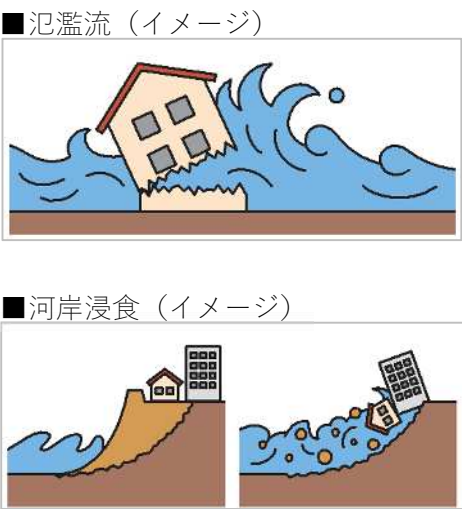


(資料:浸水予想図の対象範囲イメージ(愛知県 HP))

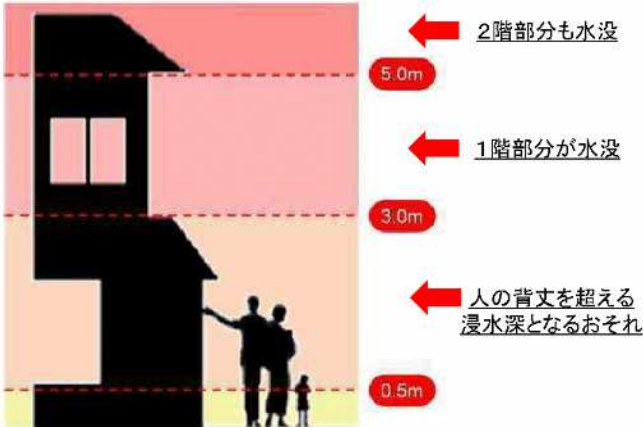
(2) 災害リスク分析の目安

- ① 浸水深のリスクについては、1階床上が浸水する浸水深0.5m、2階床上まで浸水し2階への垂直避難が困難になる浸水深3.0mを目安とします。
- ② 浸水深が0.5mになってから0.5mを下回るまでの浸水継続時間（想定最大規模のみ公表）については、「浸水継続時間と避難生活環境」を参照し、健康障害の発生や最悪の場合は生命の危機が生じる恐れがあるとされる浸水継続時間3日以上を目安とします。
- ③ 家屋倒壊のリスクについては、家屋倒壊等氾濫想定区域（洪水の想定最大規模のみ公表）の区域内に建物があるかどうかを目安とします。
- ※氾濫流：洪水時に氾濫した水の力により、木造家屋が流失・倒壊することが想定される区域
- ※河岸浸食：洪水時に、堤防が侵食され、その背後にある家屋が流失・倒壊することが想定される区域
- ④ 津波浸水深のリスクについては、洪水及び高潮の浸水深の目安に加え、右図の「津波浸水深と建物被害の関係」を参照し、建物の被害が大きくなるとされる浸水深2.0mを目安とします

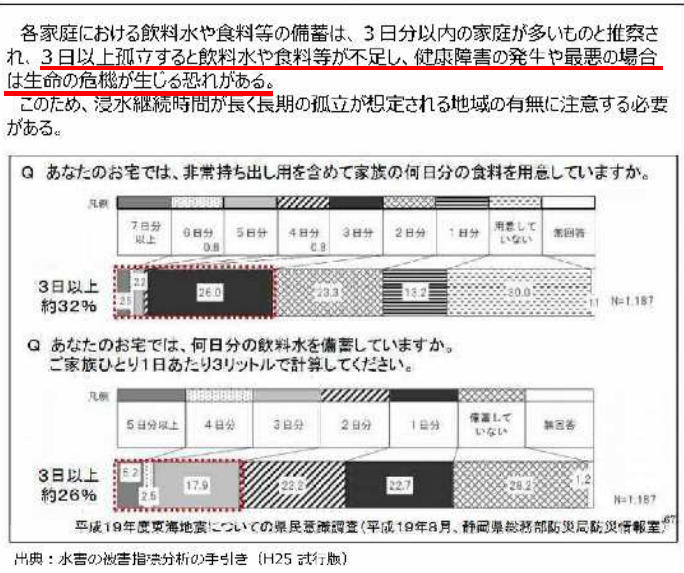
③家屋倒壊リスクのイメージ



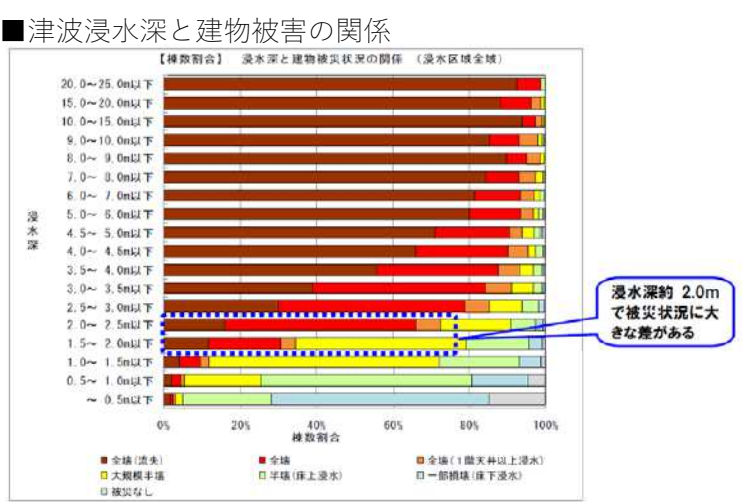
①浸水深と人的被害リスクのイメージ



② 浸水継続時間と避難生活環境



④津波浸水深のリスクのイメージ

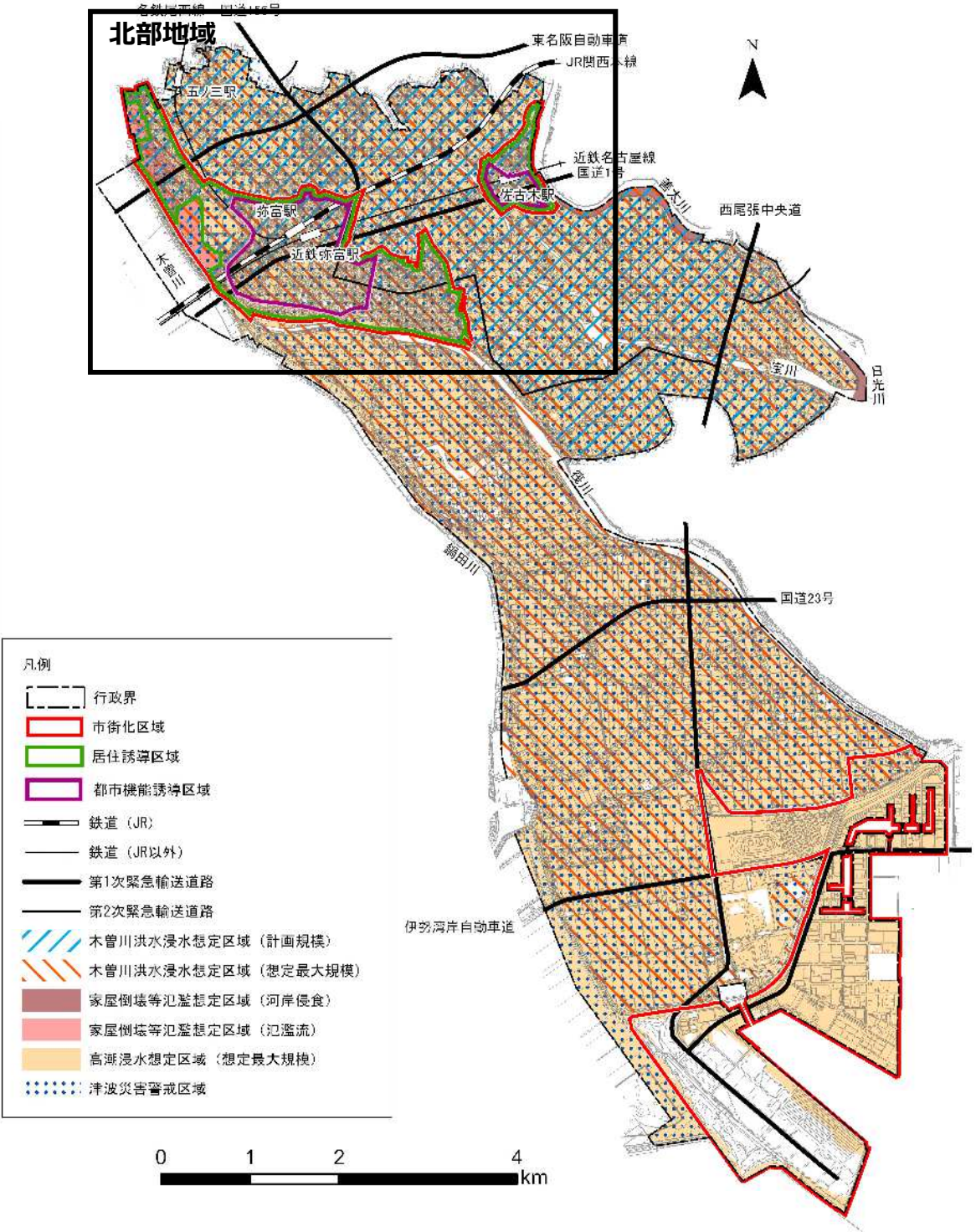


(3) 各種災害ハザードの整理

各種ハザードの整理については、別冊を参照。

(4) 防災まちづくりの課題

本市において想定される各種ハザードのうち、最も被害が大きくなることが見込まれる木曾川の洪水浸水想定区域、家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸浸食、氾濫流）、高潮浸水想定区域（想定最大規模）、津波災害警戒区域を重ねると、南の工業地帯を除くほぼ全域でハザードのリスクがあります。その中でも人口が集中している北部地域を災害リスクの高い地域として抽出します。



■災害リスク分析の整理

洪水 高潮 津波
・避難所、緊急時避難場所の徒歩圏外となっており、徒歩での避難が困難

洪水
・計画規模で床上浸水(浸水深0.5m以上)が発生する恐れがある
・氾濫流により家屋等が倒壊・流出する恐れがある

洪水 高潮
・想定最大規模で3m以上の浸水により垂直避難が困難となる恐れがある
・浸水が3日以上継続し、健康障害の発生や生命の危機が生じる恐れがある

洪水
・氾濫流により道路が流失する恐れがある

洪水
・氾濫流により家屋等が倒壊・流出する恐れがある

洪水 高潮 津波
・浸水により道路が不通となる恐れがある

洪水 高潮 津波
【全域】
・避難所や緊急時避難場所が浸水し、使用できなくなる恐れがある
・都市機能が浸水し、機能が低下する恐れがある

洪水 高潮 津波
・浸水により道路が不通となる恐れがある

洪水 高潮 津波
・避難所の徒歩圏外となっており、徒歩での避難が困難

洪水
・河岸浸食により家屋等が倒壊・流出する恐れがある

洪水
・河岸浸食により道路が流失する恐れがある

洪水
・計画規模で床上浸水(浸水深0.5m以上)が発生する恐れがある
洪水 高潮
・想定最大規模で3m以上の浸水により垂直避難が困難となる恐れがある
・浸水が3日以上継続し、健康障害の発生や生命の危機が生じる恐れがある
津波
・津波により建物への大きな被害が発生する恐れがある

洪水 高潮 津波
・浸水により道路が不通となる恐れがある

洪水 高潮
・想定最大規模で3m以上の浸水により垂直避難が困難となる恐れがある
・浸水が3日以上継続し、健康障害の発生や生命の危機が生じる恐れがある



※洪水・高潮浸水継続時間(3日以上)、津波災害警戒区域は北部地域全域で想定

3. 防災上の課題の取りまとめ

課題①おおむね全域で想定される浸水に対して、事前の広域避難が必要

本市においては、おおむね全域での浸水が想定され、居住誘導区域内にも垂直避難が困難な住宅の分布や避難所の浸水がみられ、事前に浸水が想定されない市外への広域避難が必要となります。

課題②事前避難が出来なかった場合等において、垂直避難対策が必要

事前避難できない場合や津波による浸水で事前避難が困難な場合に、浸水が想定されない緊急時避難場所等への垂直避難や想定される長期の浸水に対する備蓄等の事前準備が必要となります。

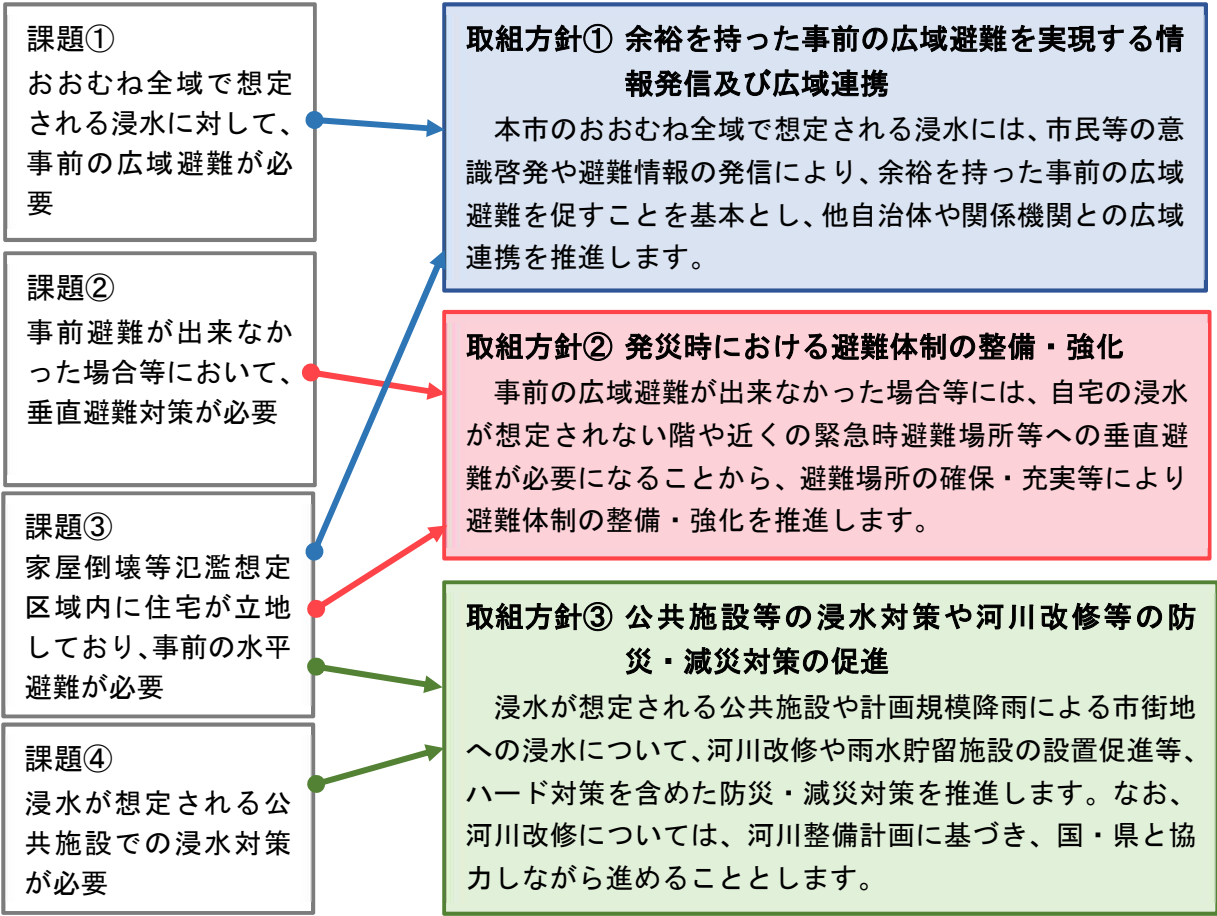
課題③家屋倒壊等氾濫想定区域内に住宅が立地しており、事前の水平避難が必要

木曽川及び善太川沿いに家屋等の倒壊、流出の懸念がある住宅があり、災害情報を収集し、避難場所等の安全な場所への事前の水平避難が必要となります。

課題④浸水が想定される公共施設での浸水対策が必要

市内の浸水が想定される区域において、保育所や福祉施設等の要配慮者利用施設も含まれており、浸水対策が必要となる。

4. 防災まちづくりの考え方及び取組方針



5. 具体的な取組

取組方針に基づく具体的な取組は弥富市地域強靱化計画から抜粋し整理します。内容は別冊を参照。

6. 評価指標

本計画の防災まちづくりに関する進捗状況を評価・検証するために評価指標を設定します。評価指標は取組方針に基づく具体的な取組の実施状況とし、評価する際は居住誘導区域の取組の実施状況を勘案します。加えて、時間をかけて着実に都市の安全性・災害への対応力を高めていくことを目指し、取組の効果を測る指標を設定します。

評価指標（取組の実施状況）		現状値 （年度）	目標値 （年度）	出典
取組方針① 余裕を持った事前の広域避難を実現する情報発信及び広域連携	■広域連携の協定数 （他自治体、市外の民間事業者との協定数合計）	16 (2023)	現状値から増加を目指す (2035)	弥富市地域防災計画
	■安全・防災メール登録者数	5,237人 (2023)	6,000人 (2028)	弥富市地域強靱化計画
取組方針② 発災時における避難体制の整備・強化	■防災訓練を実施した自主防災組織の数	17 (2022)	60 (2028)	弥富市地域強靱化計画
	■避難行動要支援者台帳登録者数	2,022人 (2023)	2,300人 (2028)	弥富市地域強靱化計画
取組方針③ 公共施設等の浸水対策や河川改修等の防災・減災対策の促進	■河川整備率	約37% (2021)	約51% (2025)	木曽川流域治水プロジェクト（全区間）
	■農業用排水機場の耐震化及び更新・整備数	4 機場 (2020)	6 機場 (2032)	弥富市地域強靱化計画

取組の実施
効果の発現

取組の効果を測る指標 （白鳥・弥生・桜・日の出小学校区）	現状値 （年度）	目標値 （2035年度）	出典
■災害時の避難路・避難場所を知っている人の割合	80.1% (2022)	↗ 徐々に増加を目指す	市民意識調査アンケート
■直近1年間に、防火・防災訓練に参加した人の割合	10.3% (2022)	↗ 徐々に増加を目指す	市民意識調査アンケート
■防災対策の推進についての市民満足度	0.76 (2022)	↗ 徐々に増加を目指す	市民意識調査アンケート